

《「丹波」と「丹波市」の認識に関する混乱・誤解の事例》

1. 市名に伴う混乱・誤解

行政に関すること

	混乱・誤解の具体事例
1	平成29年2月、篠山産業高校3年生の学習発表にて、「山の芋チョコペを丹波の森公園で販売したが、多くの『丹波篠山』の人が買ってくれた」旨の発表がありました。 この『丹波篠山』とは、丹波市・篠山市の人を指す、とのことでした。
2	平成28年頃、篠山市在住の青年が、丹波市役所の採用試験を受け、面接の時「丹波篠山は良いところですよ」と答えました。面接の職員が確認したところ、「丹波篠山」とは、「丹波市と篠山市のことを指す」と思っていた、とのことでした。
3	平成29年3月、丹波県民局のビジョン委員会の発表があり、「丹波篠山地域」と表示された冊子が配布されました。 この「丹波篠山地域」とは、丹波市と篠山市を指す意味で使われていました。
4	「たんば移住・環流促進協議会」の席上で、丹波市の委員が「丹波篠山」への移住意向が高まっていると発言していたが、委員の中では、「丹波篠山」が丹波市と篠山市を表現していると思っているが、全くの誤解である。
5	兵庫県発行の小学校5,6年の道徳副読本で、「丹波篠山といえば、今ではひとところのように呼ばれることがある。とくに観光で訪れる人たちは、丹波と篠山がそれぞれ別土地であることを、あまり知らない。」「どうしてこのように呼ばれるようになったかといえば、それは交通の便がよくなり、行き来が楽にできるようになったからだろう。明治の初めころは、とても二つの土地の名をくっつけて呼べるような状態ではなかった。」との誤った認識がされている。
6	ふるさと納税事務で、「商品が来ない」「寄付証明書が届かない」や、商品の問い合わせに関する電話対応をしたときに、よく聞いてみると「篠山市」ではなく「丹波市」に寄付をした、という間違いが多かった。丹波市と篠山市が別であることがわからずに、問い合わせをされるケースが多い。ふるさと納税は、他県からの納税が多いので、よく間違われる。(平成28年度・ふるさと納税)
7	移住前に、丹波篠山というが、丹波市と篠山市の関係がわからなかった。丹波市の中に、篠山があるのかと思っていた。(平成27年ごろ・大阪から篠山へ移住者された方)
8	篠山市内にある兵庫県の施設名に「丹波〇〇」とつくものがあり、県の施設か、丹波市の施設を指すものか見分けがつかないものが多い。(例：新たんば荘、丹波並木道中央公園など)

9	<p>県の出先機関の名称や施設名称が、丹波県民局、丹波健康福祉事務所、丹波の森公苑などの「丹波」という名称になっているため、丹波市の施設や機関との思い間違いがあったことを以前に聞いたことがあります。（他市の職員からとたぶん一般市民の方）</p>
10	<p>篠山市の公共施設名に「丹波〇〇、たんば〇〇」とつくものがあり、混同されるおそれがある。 （例：たんば田園交響ホール、丹波旬の市 など）</p>
11	<p>丹波県民局の事業名に「〇〇丹波」や「たんば〇〇」など、丹波地域を指すものか、丹波市を指すものか見分けがつかないものが多い。 （例：丹波の森構想、たんば移住・還流プロジェクト推進事業、丹波すぐれもの顕彰事業 など（別紙参照））</p>
12	<p>丹波県民局が主催の会議の中では、「丹波」という言葉がよく使われるが、それが丹波地域を指すのか、丹波市を指すのか、曖昧である。</p>
13	<p>県職員のあいさつの中や、講演会の講師の言葉の中で、篠山市に来て、篠山市の職員や市民に話しているのに、あいさつの言葉の中で、勘違いとは思いますが、「篠山市」に来ているのに、「丹波市の」といった感じで話されることがある。 篠山に来て丹波という印象が強いのか、県の機関が丹波という名称で、いつも使っているからかと感じた。これを聞いた市民は、いい感じがしないでしょう。</p>
14	<p>市外の方から郵便による戸籍や住民票等の請求時に、丹波市へ請求すべきものが篠山市に請求されたケースや、また逆のような状態が回数・時期は不明ですが過去に数回ありました。その際は、請求者本人に状況を説明し市役所間で転送を行いました。</p>
15	<p>市町村間で戸籍や住民票等の内容についての照会があった際に、丹波市に照会するケースを篠山市に照会されることが過去にありました。（回数・時期は不明）</p>
16	<p>身体障害者福祉協議会主催のグランドゴルフ大会において、西播地区の参加者から、「丹波市チームと篠山市チームと分けなくても、丹波篠山市チームとして出場したら良いのでは？」と言われた。（丹波市と篠山市は一つの市として「丹波篠山市」と認識されていた。）</p>
17	<p>京阪神では、篠山の事を、「タンバ」と愛称で呼ばれることが多く、丹波市自体の存在を知らない方が多いので、説明で紛らわしい。</p>

観光に関すること

	混乱・誤解の具体事例
1	韓国からの視察者の方の情報によると、「篠山市についてインターネットで調べると、必然的に「丹波篠山」にヒットする。それにより、「丹波篠山」で検索していると、丹波市の情報も出てきて困惑した。」海外の方もそのような意見を言われていた。 (平成28年・漢陽大学視察)
2	「丹波篠山」をインターネットで検索するとき、「たんば」を入力して変換をすると、候補に「丹波市」がでてくるので、何も知らない他府県の方は「丹波篠山」は「丹波市」だと思ってしまうということを友人から聞いた。 (平成28年・友人から)
3	チルドレンズミュージアムに県外から来られるお客様との会話の中で、「丹波市と篠山市は違う市なのですね、同じだと思っていました。」との声をよく聞くことがある。知名度は丹波市のほうがるように感じる。 (チルドレンズミュージアム職員)
4	篠山に来る観光客が丹波市まで行ってしまった (平成27年ごろ・電話による問い合わせ)
5	お客さまから、電話にて丹波市の観光に関する問い合わせがあった。 (平成27年、電話による問い合わせ)
6	ブースへ訪れたお客様に対して「篠山市」を説明すると分からなかったが「丹波篠山」というと認識いただいた。 (平成28年、岐阜県の日本遺産サミットにて)
7	インスタグラム等でのSNSで観光客が丹波市と篠山市にある名所・名産や店を混同して投稿している。ハッシュタグといわれるもので投稿に地名等が関連付けできるが、篠山市の写真に丹波市がタグ付けされている投稿がみられる。
8	「丹波市に観光で訪れたお客さんが、『本当は篠山市を観光したかったのに、丹波篠山だと思って来てみたら丹波市で、来たかった場所と違う』と丹波市のお店で文句を言われた」と、丹波市職員から聞いた。 (平成28年4月に聞いた情報・観光客の発言時期は不明)
9	阪神間から観光の問い合わせで丹波市で開催のイベントについて篠山市に問い合わせがあったことがある。京丹波も同様である。伝書鳩メールでもたまに場所を誤解したものもある。 逆に篠山のイベント等について丹波市に問い合わせがいつているだろうとも予想される。

特産・ブランドに関すること

	混乱・誤解の具体事例
1	丹波栗は、丹波市の栗のことだと思われている
2	丹波の黒豆が「篠山市の豆」か「丹波市の豆」かどちらかわからなかった。 (平成27年ごろ・大阪から篠山へ移住者された方)
3	テレビで「丹波篠山の味覚」みたいな番組を見ていたら、前半は篠山市の黒豆、栗、山の芋でしたが、後半は丹波市の小豆、シカ肉が出てきました。知らない人が普通に見たら同じところの特産品だと誤解する内容でした。多分、作成している人がすでに混乱している感じでした。
4	県外の親戚は「丹波産」を「丹波篠山産」と勘違いしています。 どこかで見かけたら、「買ったよ！丹波産！」となります。
5	T V等の観光や食の紹介番組や店頭で販売されている商品等で丹波黒大豆、丹波栗、丹波松茸など、丹波〇〇〇とついており、篠山市の特産物の話をすると、市外の知り合いは京都だと思っていた。名称に篠山が全面に出ていないため、丹波とついているものは市名と地域に誤解がある。
6	阪神丹波副市長会の懇親会で、懇親会場の飲食店オーナーが、「丹波産の野菜を使ったお料理です」と説明された後、阪神地区の副市長が揃って、丹波市副市長に「丹波市の野菜だ」と話題を振られた。しかし、オーナーは古陶館の中西館長と懇意にしている、よく篠山市に行くわざわざ平野副市長にあいさつされていたので、実際は篠山産の野菜に違いない。 近隣市の行政トップでさえ、「丹波産」というと篠山産の農産物なのに、丹波市産だと誤解されていることに衝撃を受けた。 (平成29年2月・阪神丹波副市長会(会場：伊丹市))
7	職員が友人との会話のなかから ・黒枝豆や丹波大納言小豆を購入するため、間違えて丹波市まで行ってしまった。 ・丹波篠山のあたみに「丹波」がつくだけで丹波市産だと勘違いされた。
8	丹波焼を求めて買い物に来られた観光客が、丹波市のおばあちゃんの里に行かれて、場所を尋ねられた。 この他にも、丹波焼の産地は丹波市という誤解が多い。(平成28年10月陶器まつり開催時)
9	ネット上で丹波霧芋を検索すると 霧芋 . デジタル大辞泉プラスの解説 霧芋：兵庫県丹波市で生産されるヤマノイモ。肉質は緻密で粘り気が強く、とろろ、酢の物などにして食する。「丹波篠山山の芋」ともいう。これは、丹波市と篠山市を混同した掲載である。

10	<p>丹波市の、「丹（まごころ）の里」活性化推進協議会（丹波市、丹波ひかみ農業協同組合、丹波県民局）が運営するホームページ「農・森・人NOW」上で “山の芋、丹波、旬、特徴、霧芋” 丹波地方で江戸時代中期ころから栽培されていたといわれている「山の芋」として紹介し、集荷風景が映されている。 （山の芋昔から丹波市の特産であるかのような記載であり誤解を招く）</p>
11	<p>丹波市内のジュンテンドー(山南店、氷上店)にて「丹波篠山特産黒枝豆」と記載された黒枝豆出荷用段ボールが販売されていた。（丹波黒枝豆という箱も同時販売） 職員が氷上店に赴き、抗議するも、篠山の人も購入されます。篠山にはジュンテンドーはありませんので、置いています、とのことであった。栽培者のモラルの問題として販売中止を受け入れてもらえなかった。 （平成28年10月）</p>
12	<p>丹波栗フェア実行委員会(丹波農林振興事務所)のパンフには、丹波栗として記載が無く、両市の販売店や栗拾い農園の紹介が掲載されているが、丹波栗の産地は、丹波市と誤解される可能性がある。せめて表紙に「丹波栗とは篠山市及び丹波市で生産される栗です」といった掲載が必要ではないか。</p>

報道・メディアに関すること

混乱・誤解の具体事例	
1	NHKの天気予報で表記が「丹波・篠山」となっており、混乱する。
2	新聞（読売・毎日）の丹波地域のページの表示が「丹波」であり、丹波市のみと混同されるおそれがある。
3	丹波篠山を特集したNHKの番組にて、山南町などの飲食店も紹介されていた。「丹波・篠山」と「丹波篠山」を混同していると思われる。（平成28年、NHKの番組「旅とこ」）
4	NHKやサンテレビの天気予報やニュースなどを見ていると、「丹波・篠山」と記載があっても、「たんばし、ささやまし」というアナウンサーの言葉であったり、「・」を除いて「たんば、ささやま」という表現されることがあるので、うまく表現できていないなと感じることがあります。
5	もう数年も前のことですが、サンテレビ（だったと記憶している）の兵庫県内を紹介する番組で、「今日は丹波篠山を紹介します。丹波篠山とは、丹波市と篠山市からなる地域のことをさす名称で・・・」とナレーションがあったことに違和感があったので記憶している。丹波篠山という単語が、サンテレビでさえ丹波の国篠山ではなく、丹波と篠山を意味することと誤解しているのだと驚き、また、その番組を見た人がその記憶にすり込まれていくのだと感じた事例でした。
6	メディアで「丹波地方の」とか「丹波の」と言われると「丹波市」を連想されることが多く、それだけメディアの影響が強いので混乱をまねくことがある。

その他

混乱・誤解の具体事例	
1	文化庁受付で「篠山市」を「しのやまし」と呼ばれた。
2	日本遺産サミットの席上で、文化庁が選任している日本遺産プロデューサーが「篠山市」を「しのやまし」と呼んだことは、非常に遺憾であった。
3	丹波篠山をご存じの方も、「篠山市」を「しのやま」と呼ばれることが多くある。(頻回)
4	職員が過去に聞いたこと ・イタリア在住経験があるという70代男性。 イタリアに住んでいる友人(日本人)に、「篠山」の読み方を、「ささやま」だと何度教えても、「しのやま」と言う・・・
5	息子との会話から“友だち(京都府出身)に、「篠山市」は、「しのやまし」としか読めない。「丹波篠山(たんばささやま)」のことは知っているけど・・・”と言われる。
6	篠山市の土地利用の規制内容、都市計画区域の有無、用途地域等を電話により問い合わせが受けることが多くあるが、大阪や奈良などの市外業者より「ササヤマシ」を「シノヤマシ」と言われた事例があった。(随時)
7	「篠山市」と表記すると、特に関東方面では、「シノヤマ」と読まれ間違われる。銀行振り込みなどでは、カタカナ入力なので間違えると振込できないこともある。「丹波篠山市」となれば、間違いも減るのでは。

2. 市名変更に伴い想定される効果

行政に関すること

混乱・誤解の具体事例	
1	ふるさと納税について、問い合わせなどの状況から、篠山市と丹波市が混同されている可能性がある。「丹波篠山市」になることで、篠山に納税しようとする方との間違いが減ると思われる。
2	市名変更に伴う看板、印刷物の変更に伴う経済的な特需効果も見込める。
3	丹波篠山、丹波・篠山、丹波市、篠山市と表記が統一されておらず、丹波市の市名が変わらない限り、旧国名を冠した地域の混乱は無くならない。しかし、篠山市を知らない方にとっては、丹波篠山市とすることで篠山が丹波であるという認識が広がり、混乱は改善されると考えます。

産業・ブランドに関すること

1	さまざまなブランドの名称を「丹波篠山〇〇」と呼んでおり、市名の変更によって、ブランド名と市名が一致し、分かりやすい。
2	ブランド力のアップにつながる。 黒大豆などの農産物や、現在、注目を浴びつつある古民家の再生など、単に「篠山市」というより「丹波篠山市」の方が、音声で聞くと、自然豊かな故郷のイメージが広がるように感じる。また、実際に市外の方は、「丹波篠山」が市名だと思っておられる方もある。
3	特産物や、デカンショ節の歌詞など一致し、理解が深まりやすい

報道・メディアに関すること

1	合併等に伴わない市名変更は大変珍しく、メディア等でも取り上げられることになる。市名変更を機に丹波篠山の認知も向上し、観光客UP等にもつながる。
2	ニュースに取り上げられることにより知名度アップになり、市民の地域について再認識を促すことにもつながる。